

バリアフリー演劇を考える！

東京演劇集団風公開講座



日時 10月15日(土)
午後1時30分～午後4時30分
〔午後1時開場〕
会場 勝央文化ホール

受講無料

ユニバーサル社会の実現を目指して、舞台芸術の分野でも様々な取り組みが行われています。本講座では、東京演劇集団風のバリアフリー演劇をとおして、ユニバーサル社会について考えます。

【東京演劇集団風のバリアフリー演劇への取り組み】

バリアフリー演劇では、通常、字幕や音声ガイドといったツールを利用するものが多いが、「東京演劇集団風」は、演出自体にバリアフリーの試みを入れ込み、積極的にバリアフリー演劇に取り組んでいる。具体的には、聴覚障がい者向けに字幕スーパーを舞台上に映写することに加え、手話通訳者が芝居に溶け込むような形で通訳を行う。また、視覚障がい者向けには、音声ガイドをイヤホンからだけでなくスピーカーから流し、台詞と台詞の間の状況説明などを補完する。これは、健常者と同じように障がい者も演劇を楽しむというレベルを超えて、作品を観る者全員が等しくバリアフリー演劇を体験するという試みである。つまり、誰にでも演劇を楽しむ権利があるという考えを、まさに、演劇的な手法で実現したものといえる。

—第1部—

舞台手話通訳・小島祐美の手話講座

登壇者：小島祐美

司会：佐野 準

バリアフリー演劇の映像を交えながら、舞台手話通訳にあたり心掛けていることとお話し、簡単な手話講座を行います。

—第2部—

フリートーク：僕たちのめざすバリアフリー

登壇者：東京演劇集団風 柳瀬太一

夢宙センター代表 平下耕三

※ バックステージツアーも同時開催

東京演劇集団風公開講座受講申込書

氏名

住所

年齢

歳

連絡先

【出演者プロフィール】

小島 祐美 舞台手話通訳



手話通訳士として診察や救急搬送時、学校の面談、裁判や警察での取り調べ、講演会やテレビ番組など、幅広い場面で手話通訳を務める。幼稚園や小学校、特別支援学校の教員免許、また保育士資格を持ち、通訳者養成講習会の講師や小中学校の先生などにも手話を教える。2019年、舞台手話通訳として東京演劇集団風のバリアフリー演劇『ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち』（松兼功作／浅野佳成演出）の初演に参加。その後、『星の王子さま』（サン＝テグジュペリ／浅野佳成演出）、『Touch～孤独から愛へ』（ライル・ケスラー作／浅野佳成演出）のバリアフリー演劇にも初演より携わり、豊かな身体表現をもって舞台手話通訳の新たな存在を開く。

佐野 準 東京演劇集団風 俳優



日本大学芸術学部演劇学科卒業。2006年、インターンシップ生として『Touch～孤独から愛へ』（ライル・ケスラー作／浅野佳成演出）でトリート役を演じ、東京演劇集団風に入団。その後、同作品を自身の代表作として拠点劇場・全国巡回公演の舞台を踏む。舞台と客席に真っ直ぐに向かう姿勢は若い世代の支持も厚い。2016年に初演となったマテイ・ヴィスニユック作の新作『母が口にした「進歩」その言葉はひどく嘘っぽく響いていた』（江原早哉香演出）では、〈死者たちの世界〉を語る息子役を演じている。全国巡回公演・西日本プロジェクトのチーフを務め、公演のプロデュースを行っている。

柳瀬 太一 東京演劇集団風 劇団代表



1987年、東京演劇集団風創立に参画。風の根幹となるチューホフ作品、プレヒト作品にほぼ出演し、ベルトルト・プレヒト作、浅野佳成演出による『マハゴニー市の興亡』（パウル・アッカーマン役）、『肝っ玉おっ母とその子供たち』（料理人役）など代表作も多い。近年は江原早哉香演出による『なぜ へカベ』（2013年初演／マテイ・ヴィスニユック作）のゼウス役、『母が口にした「進歩」』（2016年初演／マテイ・ヴィスニユック作）の隣人役などで主要な役を担い、幅広い人間観察から生み出される骨太の舞台に定評がある。また上演企画チーフ・ダイレクターとして、全国巡回公演や海外での公演活動のプロデュースを行っている。

平下 耕三 NPO 法人自立生活夢宙センター代表



7年間勤めた行政の外郭団体である自立センターを退職し、自分自身の夢を実現するために「自立生活夢宙センター」を開設した。先天性骨形成不全症という生まれつき骨の組織が弱く骨が折れやすい疾患（難病）をもつ車椅子利用者である。1995（平成7）年に1か月間アメリカでの生活を体験する。そこで「自分自身を好きになることの大切さ」を学んだ。「人間は、生きていく上で必要な環境が三つある。①安心（愛されていること）②自由（好き放題やるのではなく、自分でえらべるということ）③自信（自分をたいせつにすること）自分を大切にできないと人も大切にできない。人と人との関係性の中で、本来持っている内なる力（自分力）を互いに引き出し、発揮できることがエンパワーメントである。」と自尊感情の重要性を強調する。